

クロネハイイロヒメハマキ (別名 クロネハイイロハマキ)

春にヤチダモ、イヌツゲなどの新芽や葉を糸で綴って食べるイモムシ(幼虫)。最大長約12mm。体は茶色、頭は黒。ヤチダモ林でまれに多発する。また、リンゴでは害虫とされる。



1. 老齢幼虫，体長12mm。1991/6/25。置戸町，ヤチダモ。



2. 雌成虫，体長7mm。1を飼育。

【学名】 *Rhopobota naevana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；北半球。

【特徴】

幼虫は終齢で体長約10mm。体は淡褐色。頭部，胸脚，前胸背楯は黒褐色。肛上板(腹端背面)はやや暗い。

【生態】

幼虫はバラ科(リンゴ，ナナカマド他)，モチノキ科(イヌツゲ他)，モクセイ科(イボタ，ヤチダモ)などの葉を食べ，リンゴ栽培地域では春から秋の間に3回発生するといわれている。幼虫は新芽や枝先の葉を綴り合わせる。幹や枝に産みつけられた卵の状態越冬する。越冬卵は赤茶色，夏の卵は黄色。

北海道の低山地では終齢幼虫が6月下旬に採れ，室内飼育下では7月中旬に成虫が羽化した。

【被害と防除】

古くからイヌツゲやリンゴの害虫として知られている。ヤチダモでも1992年北海道の防風林で多発が観察された。森林での多発は1年で終わっており，食害により木が枯れた記録はない。防除は普通必要とされない。

庭では多発した例はないようであるが，気になるときは幼虫を取り除く。幼虫のいるところは数枚の葉が糸で綴られ変色している。

果樹園のリンゴでは防除が行われている。

【文献】

1969. 一色周知監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑 (下) : I-VI, 1-237, pls 1-68. 保育社, 大阪.
1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫 (下) 害虫とその防除 : 1-290. 日本林業技術協会, 東京.
1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑: I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪.
1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.
1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病害虫, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)
- *1993. 福山研二, 前藤薫, 東浦康友, 原秀穂. 平成4年度に発生した森林昆虫. 北方林業, 45: 269-272. (ヤチダモでの多発記録)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

クロネハイイロヒメハマキ himehama/kuroneha/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993/12/21.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～2」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991.